

土木構造物荷重指針連合小委員会 第16回 議事録

○日 時：2005年12月26日(月)14:00～17:00

○場 所：土木学会 B会議室

○出席者：古田委員長、白木副委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、秋山幹事、梶田委員、香月幹事、川谷委員、北原幹事、金委員、篠田委員、鈴木幹事、中山委員、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認
2) 発題と討議
・作用指針原稿案の進捗状況の確認
・継続的委員会の提案について

○配布資料： 16-1) 第15回 議事録(案)
16-2) 作用指針 進捗状況の確認
16-3) 継続的としての「作用・荷重・環境的影響検討小委員会」のご提案

○主な討議 (発言者、敬称略)

1. 前回議事録の確認

- ・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。
- ・ 「土木構造物の性能設計における作用・環境的影響指針(第1版)(仮)」の出版企画書について、11月に出版委員会のヒアリングを受けた。ヒアリングでは、「価格は安く、出版部数は多く(2000円台、1000部?)」「講習会は数多く開催すべき」との意見が出された。(佐藤)

2. 作用指針原稿案の進捗状況の確認

- ・ 資料15-6に基づき、作用指針原稿案作成の進捗状況の確認を行った。
- ・ 第 編付録については、以下の通りの構成とする。
 - A- .1 荷重のばらつきや不確定性と設計用荷重(鈴木)
 - A- .2 統計的手法による作用モデルの構築(本城)
 - A- .3 偶発作用の考え方(佐藤、野津)
 - A- .4 信頼性理論に基づく作用組み合わせ(白木)(括弧内：執筆担当)
 - ...
 - A- .7「性能設計における作用・環境的影響指針」補足は、「まえがき」にまわす。
- ・ 偶発作用については、固定、変動作用との分類や、作用組み合わせに含めるかどうか等について国内外で様々な議論がある。こうした観点から、本付録では、偶発作用につい

てこれまで議論してきたことをきっちりと残し、その上で現実的にはどう取り扱うか、どのような考え方があるかを記述する。(本城、白木、他)

- ・ ・ 「偶発作用は固定作用とのみ組み合わせる」と定義づけなければ、指針としては読者が混乱するのでは。(香月)
- ・ ・ 偶発作用を考慮するかどうか、変動作用等と組み合わせるかについては、偶発作用の定義からではなく、政策的な判断やデザインシチュエーションによる。(佐藤、鈴木)
- ・ ・ 地震作用と偶発作用の関係、定義には今後も議論がある。(秋山、他)
- ・ ・ 荷重(作用)と限界状態の関係についての議論があった。(白木、鈴木)
- ・ ・ ・ ・ ・
- ・ 走行(活)作用については、できるだけ最新のデータをわかりやすく読者に提供する。(川谷、他)
- ・ 風作用については、耐風設計便覧の改訂動向をフォローしておく。(川谷)
- ・ 作用指針各章のうち一次原稿が提出されていないものについては、次回委員会開催前を提出期日として佐藤幹事長から各担当者に通知する。
- ・ 原稿案は基本として Word で作成する。(書式は今後調整・統一する)

3. 継続的委員会の提案について

- ・ 佐藤幹事長より、資料 16-3 の「作用・荷重・環境的影響検討小委員会(継続的組織)」に関する提案書の説明がなされた。活動としては、指針のサポートと継続教育の対応を柱とする。
- ・ 活発な委員会活動には、指針の維持・管理だけでなく、何か高い目的意識が必要ではないか。(白木)
- ・ 課題のある特定作用(例えば、偶発作用と荷重組み合わせ、環境作用・・)について議論を深め、改訂版につなげることで活動できないか。(古田)
- ・ データベースや例題集の作成も考えられる。

次回開催予定

第 17 回本委員会 3月15日(水) 10:00~12:00 土木学会

以上